

鳴緑江株木公司ニ関スル協定

内容

- 鳴緑江日清合同材木會社章程
- 鳴緑江株木公司業務章程
- 鳴緑江株木公司業務章程ニ関スル覚書

鴨緑江日清合同材木會社章程(一八〇八年
明治四年五月二日北京ニ於テ調印)

大日本帝國特命全權公使男爵林權助大清國外務部會辦

大臣那桐各本國政府ノ委任ヲ奉シ明治三十八年十二月

二十二日即チ光緒三十一年十一月二十六日締結セル滿

洲ニ關スル日清條約附屬協約第一條ノ規定ニ

基キ日清合同材木會社ノ章程ヲ協定スルコト左ノ如シ

第一條 鴨緑江右岸嶺帽兒山ヨリ二十四道溝ニ至ル間談

江面ニ距ル六十清里内ヲ劃定シテ界ト為シ(奉天

ヨリ委員ヲ派シ日本委員ト合同測定シテ標ヲ立テ

界ヲ示ス)界内ノ木材ハ日清西國合資ヲ以テ採伐

事業ヲ經營スルモノトス但シ會社創業ノ始メニ於

テハ西國ヨリ買テ派シ局ヲ設ケテ營業シ一箇年後

一切ノ事務整頓等當トナリタルヲ俟テ西國ヨリ

招商承辦ヤシムヘシ

第二條 日清合同ノ木材會社ヲ鴨綠江採木公司ト稱ス

第三條 本會社ノ資本ヲ參百萬元トシ日清兩國ヨリ各

半額ヲ出資スヘシ

第四條 本會社ハ其ノ發局ヲ安東ニ設置ス本會社ヲ必

要ト認ムル時ハ督辦ニ届出ノ上夫々各地ニ分局ヲ

設置スルコトヲ得

第五條 本會社ハ從來ノ清國木把ノ事業ヲ保全スルコ

トニ同意ス因テ第一條ニ聲明ヤシ畫定界内ハ會社

ノ採伐ニ歸スルモ其ノ界外及渾江ノ森林ハ仍ホ樵

采ノ清國木把ノ採伐ニ歸スルモトス但シ木把ノ

要スル資本金ハ本會社ヨリ借入ルヘシ其ノ採伐セ

ル木材ハ江浙鐵路公司所要ノ枕木及渾江沿岸居民

自由ノ木材ヲ木把ヨリ直接買取り得ルノ外其ノ餘

リハ全部會社ノ買収ニ歸ス會社ハ市價ヲ業シテコ

レヲ突賣シ任意賣斷スルコトヲ得ス

第六條 會社自ラ採伐セル木材及木把ヨリ買収セル木

材ニシテ清國政府及清國諸官署ニ於テ之ヲ需用ス

ルトキハ護照ヲ差出シテ會社ヨリ買取ルヘシ但シ

此場合ニハ會社ハ実費ニヨリテ計算シ價格ヲ高ク

レシ得ス

第七條 本會社ノ經營期限ヲ二十五手トシ滿期ニ至リ

清國政府ニ於テ會社ノ經營事業ヲ尚ホ妥當ナリト

認ムルトキハ會社ハ清國政府ニ出願シテ期限延長

ノ許可ヲ求ムルコトヲ得

第八條 本會社ハ督辦一人ヲ置キ奉天督撫ヨリ東遼道

台ニ命シ兼任マシメ會社ノ經營事業ヲ監督ス又理事長一人ヲ置キ日清兩國ヨリ各一名ヲ任命シ會社一切業務ヲ經理ス其ノ他ノ理事技師等ハ理事長協識ノ上送任ス若シ界内ニ於テ入山採木ノ為別國人ヲ雇用スルノ必要アルトキハ理事長ヨリ豫メ督辦ノ認可ヲ求メ之ヲ定ムハシ

第八條 本會社ハ每年末ニ於テ其ノ年内一切ノ事業報告書及收支計算書ヲ作成シ兩國當該官憲ニ提出シテ査閲ラ受クハシ

第十條 本會社ハ其ノ收支ヨリ一切ノ費用ヲ引亦リタル純益ノ百分ノ五ヲ報效金トシテ清國政府ニ上納シ残余ノ利益ハ日清兩國株主ノ均等分賦ニ歸ス會社ノ費用ハ任意支出スルヲ得ス期ヲ持シテ會社債

用人ノ俸給其他一切ノ經費額ヲ豫算シ督辦ニ提出シテ認可ラ受クハシ

第十一條 會社設立ニ關スル一切ノ辦法ハ此ノ大綱訣定ノ後一箇月以内ニ奉天督撫及在奉天日本總領事ヨリ各一名ノ委員ヲ任命シテ詳細ナル章程ヲ商議セシメ協定ノ後之ヲ會社ニ交付シテ遵照辦理セシメ三箇月以内ヲ限リ開業スルモノトス以後會社ニ於テ別ニ規定ラ定ムル場合ニハ督辦ノ認可ヲ經テ施行スハシ

第十二條 本會社ノ納付スル木材稅ハ奉天ニ於テ詳細ノ章程ヲ商議スル際兩國委員ニ於テ從來規定ノ稅額ヲ查明シ地方官ニ商議シ同意ノ上酌減スハシ但シ會社カ輸入スル機械及伐木ニ必要ナル器具等

二 就テハ一切ノ税金釐金等ヲ免除スルシ
第十三條 本會社開業ノ後ハ日本國政府ハ現在ノ鴨綠江
木材廠ヲ全ク撤去スルコトニ同意ス

大日本國特命全權公使 野島 林 權 助
大清國外務部會辦大臣 那 桐

大日本國明治四十一年五月十四日
大清國光緒三十四年四月十五日

在北京

鴨綠江採木公司業務章程 (一八九〇年
大日本帝國領事岡部三郎大清國奉天度支使張錫鑾各本
國政府ノ命ヲ奉シ明治四十一年五月十四日即チ光緒三
十四年四月十五日協定セル鴨綠江採木公司章程第十一
條ノ規定ニ基キ該公司ノ業務章程ヲ協定スルコト左ノ
如シ

第一條 本會社ハ明治四十一年五月十四日即チ光緒三
十四年四月十五日ヲ以テ日清兩國間ニ議定セラレ
タル日清台辦鴨綠江採木公司ニ關スル取極書並本
章程ニ遵照シテ營業スルモノニシテ明治四十一年
九月二十五日即チ光緒三十四年八月一日ヲ以テ開
業ス

第二條 本會社ハ取極書ニ從ヒ兩國ヨリ買シ派シ局ヲ

設ケラ開業シ一箇年後一切ノ事務整理妥當トナ
タルヲ俟ケテ兩國ヨリ招商兼辦セシムハシ本會社
開業ノ後ニ至リテ更ニ株式募集章程ヲ定ムハキモ
ノトス

第三條 本會社ノ資本金ニ百萬元ハ開業ノ日ニ於テ日
清兩國政府ヨリ各半額ヲ出資ス商辦ニ改ムル際ニ
ハ各共資本金ヲ全部回收スルモノトス

第四條 會社ノ資本金並收支一切ノ勘定ハ凡テ清國銀
元ヲ以テ定トナス且ツ兩理事長協議ノ上日清兩國
ノ銀行ニ分存スルモノトス

第五條 本會社ニ置ク職員ハ左ノ如シ
督辦 一人
理事長 二人

理事 二人以上

技師及其他ノ職員若平名

督辦ハ奉天督撫ヨリ東邊道台ニ命シテ兼任マシメ

會社ノ經營事ヲ監督ス

理事長ハ日清兩國ヨリ各一名ヲ任命シ會社一切ノ

業務ヲ經理ス

理事ハ理事長協議ノ上選任シ各政府ニ報告スルモ

ノトス

技師及其他ノ職員ハ理事長協議ノ上之ヲ採用ス

理事以下ノ員數ハ成ル可ク西國人中ヨリ同數ヲ出

スモノトス

第六條 督辦ノ報酬ハ本公司第五會計年度即チ本年十
一月一日ヨリ毎年五十元ト定メ理事長ノ俸給ハ每

年一萬五トシ理事ノ報給ハ理事長協議ノ上之ヲ定
ム（大正元年十一月二十八日改正）

第七條 技師及其他ノ職員ノ定員數並俸給及續ハ理事
長ヨリ督辦ニ協議ノ上表ヲ製シテ之ヲ定ム

第八條 本公司ノ文書帳簿中主要ナルモノハ日平兩團
文ヲ用ヒ各一通ヲ備ヘ其ノ會計帳簿ハ第五會計年
度即チ本年十一月一日ヨリ洋式帳簿註法一通ヲ備
ヘテ取調ニ便ナラシムヘシ兩國ハ官天ヲ派シテ題
時會社業務ノ施設ヲ監査シ會社ノ金庫帳簿及諸般
ノ文書ヲ檢査シ且ツ會社ニ對シ營業上諸般ノ計畫
及景況ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得（大正元年十二月八日改正）
第九條 本會社一切ノ決算記數ハ凡陰曆ヲ用ヒ以テ取
引ニ便ナラシムヘシ商辦ニ改ムル際ニハ直チニ決

算ヲナスモノトス

第十條 本會社ハ日清兩國ノ合資ニ係ルヲ以テ相互協
商ノ上許可スルニ非サレハ本會社自ラ増資ノ為メ
借款ヲナスコトヲ得ス

第十一條 本會社ハ純益ノ百分ノ五ヲ以テ積立金トス
此ノ積立金ノ額ハ資本金ノ三分ノ一ニ達スルヲ以
テ限度トス

前項ノ積立金ハ前條ニ依リ相互協商認可スルニ非
サレハ使用スルコトヲ得ス

第十二條 理事長ハ歲入歳出ノ豫算表ヲ調製シ督辦ノ
認可ヲ受ケレモノトス

前項ノ豫算ハ款項ニ已令シ收入ノ性質及支出ノ目
的ヲ明示スヘシ

第十三條 收入又云其他會計ニ関スル現度ハ西理事長ニ於テ協商議定シ督辦ニ報告スルモノトス

第十四條 本會社カ取扱フ一切ノ材木ニ付スル税金ハ從來規定ノ山價及客稅ノ稅則（山價及客稅ノ稅則ハ例表ニ依ル）ニ照シ具ノニ割ヲ減シタルモノヲ本會社ヨリ納付ス

シ船捐ハ仍從來ノ規定ニ照シテ辦理シ本會社トハ關係ナキモノトス其ノ他木材ニ付スル検査料、捕

盜費等ノ各種ノ諸掛、料金等ハ一切之ヲ免除セラ

ル若シ汽船ニ積載シテ輸出スル場合ニハ船捐ノ代

リニ海關規則ニ依リテ輸出稅ヲ徵收セラルヘシ

本會社ノ納付スヘキ山價、客稅ハ從來ノ慣例ニ從

ヒ木材ヲ本會社ヨリ賣却スルトキニ納ムルモノト

ス

本會社ノ營業及所得並會社使用ノ機械、採木器具等ニ付スル税金諸掛ハ一切免除スルモノトス但シ會社所有ノ土地ニ付スル租稅ハ尚從來ノ規則ニ照シテ納付スルコトヲ要ス

第十五條 江浙鐵路公司所要ノ枕木ハ本杞ヨリ直接ニ

買取ルコトヲ得ルモ必ス該鐵路公司ノ執照ヲ携帶

スヘシ而シテ該執照ニハ數量ヲ明誌シ先ッ東亞通

臺ニ呈シ證明加印ヲ受クルヲ要ス輸出ノ際ニハ本

會社督辦ヨリ買テ取シ検査ノ上追加セシムルモノ

トス

第十六條 潭江沿岸居民自用以外ノ木材ハ凡テ本會社

ノ買收ニ歸スヘキハ已ニ北京取極書ニ規定スル處ニシテ先ッ地方官ヨリ之ヲ告示シ若北京取極書ニ

違背スル者アリ場合ハ随時本會社ヨリ地方官ニ協
向謝罰シ倣借スハカラサレモノトス

第十七條 漂流木ノ整理ハ本會社之ニ任スルモノトス

但シ漂流木整理ニ關スル規制ハ理事長協議ノ上督
辨ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

從來存在スル本會ハ本會社ノ成立ト同時ニ該地方
官ヨリ告示シテ悉ク解散スルモノトス

第十八條 本會社ノ伐木地域ハ北京取極書ニ依テ鴨綠
江石岸帽子山ヨリ二十四道溝ニ至ル間江面ヲ云ル

六十青里ヲ以テ界トナシ西面ヨリ委員ヲ派遣シ該
地方官ト合同測定ノ上西面ヲ作り標ヲ立テ之ヲ

表示ス

本會社ハ森林ノ状況ヲ酌量シ伐採スルキモ

ノニシテ採伐計畫ノ順序及毎年伐採シタル地域並
樹木ノ種類等ハ逐一回表ヲ作りテ奉天督撫ニ報告

シ其ノ査閱ニ備フハシ

第二十條 本會カ伐木、運木、編筏、運筏ニ要スル一
切ノ人夫ハ專ラ清國人ヲ雇用シ以テ地方人民生業

ノ保護ニ資ス若シ別國人民ヲ雇用スルノ必要アル
トキハ取極書ニ依テ督辨ニ商議シ其認可ヲ求メテ

之ヲ定ムハシ

第二十一條 木材ノ賣買ハ本會社ノ營業ニ屬スト雖モ
清國料機等ノ仲買人等ハ從來ノ通り開店シ隨時本

會社ト打合テノ上仲買業務ニ従事スルコトヲ得ル
モノトス

大日本帝國領事 岡部三郎 印

大清國奉天度支使 張錫 鑒 印

大日本國明治四十一年九月十二日
大清國光緒三十四年八月十六日

在奉天

鴨綠江採木公司業務章程ニ關スル覺書

（一八九〇年）
（明治四十年九月二日奉天ニ於テ調印）

大日本帝國領事岡部三郎大清國奉天度支使張錫鑒
本國政府ノ命ヲ奉シ明治四十一年五月十四日即チ光緒三十
四年四月十五日協定セル鴨綠江採木公侯ノ業務章程
ニ關スル覺書ヲ協定スルコト左ノ如シ

第一 章程第四條ニ所謂清國銀元ハ北洋銀元ヲ指スモ
ノニシテ將來奉天銀元カ確定ニ流通スル後ニ至ラ
ハ便宜改メテ奉天銀元ヲ用フルモノトス兩國最初
ノ資本金ハ便宜而銀ヲ以テ支出スルコトヲ得此ノ
場合ニハ開業當日ニ於ケル北洋銀元ノ相場ニ照シ
換算スルキモノトス
第二 北京取極書第五條ニ依リ清國政府及清國諸官署

ノ買取ル木材ニ対シテハ本會社ハ實際直接ニ要セ
 ル費用及税金以外ニ會社ヲ維持スルニ必要ナル俸
 給其他一切ノ經費ノ歩合ヲ加フルモノトス
 第三 本會社成立以前ニ要スルキ創立費ハ兩國ヨリ一
 時之ヲ立替ヘ置キ會社成立ト同時ニ會社ヨリ全部
 償還スルキモノトス右創立費ノ豫定額ハ七萬元以
 内トス
 第四 銀行ヨリ預ケ金ヲ引出ス際ニハ西理事長ノ連署
 花押ヲ要スルモノトス
 第五 本會社ノ營業ニ關スル警察事宜ハ凡テ清國警察
 ノ管理ニ歸ス
 第六 本章程ハ兩國委員ノ協商ヲ經テ酌定シタルモノ
 ニシテ先ツ試ニ之ヲ施行シ商辦ニ改メタル後ニ至

リ不都合ノ虞ナキヲ契メタルトキハ即チ之ヲ談株
 式會社ニ交付シテ遵守辦理セシムルニシ
 章程第五條ニ載スル所ノ本會社職員ハ商辦ニ改メ
 ル際酌量シテ留任若クハ解職スルモノトス

大日本帝國領事 岡部三郎
 大清國奉天度天使 張錫鑾

大日本國明治四十一年八月十一日 在奉天
 大清國光緒三十四年八月十六日